

市大山岳会ニュース

大阪市立大学山岳会

会長 大橋秀一郎

No.13

平成6年3月1日発行

編集：総務幹事 矢倉 睦

平成5年度山岳会総会報告

平成5年度総会が下記のとおり開催されました。

日 時：平成6年2月6日（日） 午後3時より

場 所：JR大阪保養所

次 第：

1. 開会挨拶 大橋会長
2. 前年度活動報告及び平成6年度活動計画
 - (1) 総括 藤本幹事長
 - (2) 各幹事 企画運営幹事／総務幹事／山岳部指導幹事
3. 会計報告 会計幹事
4. 会計監査報告 会計監事
5. 役員選任

記念講演：会友 住吉仙也氏「厳冬期のエベレストを語る」

会員 和田城志氏「積雪期黒部事情」

役員選任は以下の通りです。（敬称略）

会 長	大橋秀一郎
副会長	池永薫爾
幹事長	藤本 勇
企画運営幹事	佐々木惣四郎、藤村達夫、西村正男
総 務 幹 事	奥田 寛、大島一恭、矢倉 睦、橋本信行（事務局）
山岳部指導幹事	小倉裕史、尾形達也
会 計 幹 事	福山昇二、八木信男
会 計 監 事	高木健次、廣瀬秀雄

東京支部長	廣谷光一郎
日本山岳会担当	片岡泰彦
日本山岳会関西支部担当	小林治俊
大阪府岳連担当	尾形達也
OCUSA担当	小松 稔

■△◆○ 総会欠席者の一言より □▲◇●

<会員>

- ・諸兄のご活躍を祈っております。Berg Heil! —島雄淳一郎
 - ・会社の営業が関東のみなので、大阪に行けるのは私用のみで、3月の法事まで行けません。去年11月に八ヶ岳の天狗に行きました。非常に簡単に往復しました。絶好天に恵まれて。 —堺 皓二
 - ・2月6日去年と同じく岸和田市体指の行事でカツラギ山へ登ります。早く下山して出席したいと考えておりますが、一応欠席にしておいて下さい。近況、元気です。 —山辻英也
 - ・札幌に来て丸8年。山にスキーにゴルフと楽しくやっております。OBで来道ときは知らせて下さい。穴場をお知らせします。12月札幌山岳連盟がランタン・リルン南東稜に挑戦したが、不成功。 —上田忠士
 - ・インド及びイランへ出張の為欠席致します。 —藤村達夫
 - ・最近、奥多摩、丹沢へのワンデイハイクを楽しんでいます。 —沢井弘忠
 - ・当日は法事がありますので…。昨年6月末～7月、2週間アメリカ（西）、カナダ（西）へ研修視察へ行ってきました。20年ぶりに氷河を歩いてきました。 —澤田宗博
 - ・JACの活動に忙しく走り回っています。JACは'95年創立90周年を迎えます。市大山岳部は創立何年になるのでしょうか。 —片岡泰彦
 - ・アメフトの顧問やっています。当日は新人戦で行けません。皆様によろしくお伝え下さい。 —八木信男
 - ・93年末に八ヶ岳へ行ってきました。 —山本 新
- ### <会友>
- ・エアーズロックへ行ってきました。 —古屋 浩
- ☆☆☆☆☆☆☆☆ 以上は総会への出欠葉書の欠席者の通信欄からの抜粋です。

平成5年度 活動報告

企画運営幹事

(佐々木・藤村・西村)

- * 2月17日(水) SKI & WHISKI 合宿 (責任者: 藤村)
 ~22日(月) 小笹・久保田・岡本夫妻・苑樹
 (梅池高原 佐々木夫人・岡野・藤村・藤木 計9名
 リゾートホテル 梅池) * 20数年振りの素晴らしいスキーとアフタースキー
 を味わい、楽しいひとときを満喫する。
- * 3月27日(土) 東六甲山縦走 (責任者: 西村)
 (宝塚~六甲山 藤本・中村・岡本・佐々木
 ~有馬温泉) 藤村・大島・西村 計7名
 * 天気は良し、風呂は有馬温泉の元湯、快適な
 ハイキングに全員大いに満足。
- * 4月28日(水) 立山の自然の旅 (責任者: 佐々木)
 ~5月4日(水) 山本・上堂・山辻・娘・岡本・佐々木夫妻・家族3人
 (立山 室堂 龍田夫妻・島川夫妻・大島・西村・福山 計19名
 雷鳥荘) 田中(九州松下)・マイケル(米国)
 * S30年卒からS50年卒までの会員が揃い、昔話に
 花が咲いた。5月1日には立山主峰(雄山3,015M)に
 無事登頂。登頂者全員、感激、感激。
- * 5月30日(日) 第102回大阪市立大学ボート祭 (責任者: 八木)
 (桜ノ宮 大川) 市民の部参加(54クルー)
 清原・山辻・岡本・苑樹・佐々木・
 島川・大島・西村・福山・八木 計10名
 * ランタンリルン1号
 (苑樹・福山・大島・島川・浪速高校教員) 2着
 * ランタンリルン2号
 (清原・山辻・佐々木・西村・浪速高校教員) 2着
 * 練習もやり、ベストメンバーで臨むが今年も敢え無く敗着。
 レベルは年毎にアップ、来年を期そう。
- * 6月3日(木) 銅板会 穂高の旅 (責任者: 藤本)
 ~6日(日) * ビスタリ組 三島夫妻・中島・藤本夫人・長谷日南枝
 (坂巻温泉 荻野・服部・川勝・藤本・西田・岡本 計11名
 上高地) 銅板碑を見て、故人との思い出にしばし涙ぐむ。
 ああ・・・自然の、しゃくなげの花、何と美しきかな。
- * 10月3日(日) 第1回 バードウォッチング (責任者: 島川)
 (木津川川原) 藤本・西田夫妻・上堂・山辻・島川家族
 大島・西村夫妻・尾形夫妻 計14名
 ひよどり、むくどり、ちどり、ケリ、ゴイサギ
 など21種のウォッチング、その後は島川夫人の
 素晴らしい手料理と各種アルコールに舌鼓を打つ。
- * 10月23日(土) 第1回 「初登頂 大いに語ろう会」 (責任者: 西村)
 ~24日(日) 第1次遠征隊より32年。ランタン・リルンの
 (宝塚荘 蓬莱峡) 思い出話やエピソードに参加者全員は大満足。
 翌日、久々の岩登り。東六甲を縦走して、ゴール
 の宝塚へ。 計35名

年間延参加人員 105名

平成6年度 行事計画 (案)

企画運営幹事

(佐々木・藤村・西村)

- * 4月下旬 第2回「初登頂 大いに語ろう会」 (責任者: 福山)
 四光峰初登頂5周年 (4月21日)
- * 4月29日 (金) 第2回立山の自然の旅 (責任者: 佐々木)
 ~5月5日 (木) 山岳部新入部員歓迎会 (予定)
- * 5月29日 (日) 第103回大阪市立大学ボート祭 参加
 (3クルー参加の予定) (責任者: 八木)
- * 9月 比叡山横断 (修学院~比叡山~滋賀里) (責任者: 西村)
- * 10月 第2回バードウォッチング (責任者: 西田)

★ 会員の皆様の積極的なご参加をお願い致します。

★ 総会にはご参加できない方もお気軽にお越しください。

★ ご要望やご意見がございましたら事務局または幹事まで

お願い致します。

第1回「初登頂 大いに語ろう会」

藤本 勇

ランタン・リルンが第3次隊によって初登頂されたのは、15年前の10月24日であった。15周年の節目の日に「初登頂 大いに語ろう会」が宝塚で開催された。1次、2次、3次隊の隊員だけでなく、遠征隊に参加できなかった会員の方々、家族の人達も参加された。北から南から、海外からも参加され、総員35名の会合となりました。

宴会までに、1次、2次隊のスライド撮影で若かりし頃の顔や姿に全員爆笑し、3次隊のビデオテープがテレビに放映されると往時の感激に全員が浸りました。

また、広谷氏から1次隊の翌年に出る予定であった幻の遠征隊（三島隊長）の資料や書籍などが回覧されました。

故森本隊長夫人から、先年ランタン谷にヘリコプターで訪問した時の思い出話や、泉未亡人から市大山岳会の人達との出会いなどのお話も聞かせていただきました。後藤君の遺児も出席され、大きく成長された姿を見ると、まさしく「親はなくとも子は育つ」の感ひとしおでした。

宴会が終わっても、まだまだ話がつきず、宝塚の夜は深夜まで部屋の明かりがとまり、語り明かされました。翌朝はいささか睡眠不足で朝食をとり散会しました。

元気者は、蓬莱峡で数十年ぶりにザイルを結びあって、岩登りゴックに興じました。他のパーティーは今流行りのハーネスを腰にまき、岩登り用のズックを履いて岩登り。我等は昔流のザイル結び、履物は種々雑多。昼食後、東六甲縦走路に出て宝塚に向かう。

初めての企画でありましたが、大勢の人達の参加で行事は成功に終わることができました。

第2回

「初登頂 大いに語ろう会」のご案内

— 四光峰初登頂（平成元年4月21日）5周年 —

昨秋の「ランタン・リルン初登頂大いに語ろう会」に続き、今回は四光峰初登頂5周年の集いを比良の山小屋で行います。思い出話に花を咲かせ、これからの夢を

語り合いませんか。是非ご参加下さい。

1. 日 程 : 4月16日(土)～17日(日)
2. 場 所 : 比良山、高津山小屋
3. 参加費 : 3,000円程度(夕・朝食分)
4. 参加方法 : ・現地集合組
・ハイキング・コース組
・リフト等利用組
を考えています。

参加される方は準備の都合上、3月末までに福山までご連絡下さい。追って詳細を連絡致します。

<連絡先> 〒661 尼崎市小中島1-24-15-509 福山 昇二
Tel 06-493-4410 (自宅)
06-426-6355 (職場)

* * * * *

第2回「立山自然の旅」へのお誘い

会員会友の皆様には、既に葉書にてご案内致しましたように、今年も雷鳥荘にて楽しいひとときを過ごします。皆様ぜひご参加下さい。

日 程 : 4月29日～5月4日
宿泊先 : 雷鳥荘 Tel 0764-65-5777
申込要領: 宿泊人数に限度があります。希望者は3月18日までに電話で、滞在日程と参加人数をお知らせ下さい。
連絡先 : 山 本(昭30経) Tel 03-3307-5843
橋 本(昭31経) Tel 06-308-8412
佐々木(昭40経) Tel 06-974-7470
大 島(昭45経) Tel 0727-38-2886

責任者: 佐々木

ヘリでゆくネパールヒマラヤ

中島喜一

旅仲間のT氏とネパールの話が出て、二人で10月旅行と決まり、藤本氏の紹介でヒマラヤ観光にスケジュールを組んで貰ったところ、19日間のトレッキングコースのためシルバー族には不向きと思い、三島氏とも相談の結果、ゴラパニ、ランタンのハイライトをヘリをチャーターして、ガイド、シェルパ付きの大名旅行となった。

10月16日 空港で藤本氏のお見送りを受け、マニラ経由、途中2回の機内食で腹の調子変になる。バンコック泊まり。

10月17日 1,400mのネパールの首都、人口120万のカトマンドウ空港に着き、出迎えのガイドの案内でパタン市のヒマラヤホテルに旅装をとき、パタン市内の観光。牛と糞、ドブ川の臭いがミックスして、えも言われぬ臭気に辟易する。裏通りを歩いても身に危険を感じることなく一安心。

10月18日 トレッキング許可書を取るため滞在。午前中はカトマンドウ市内観光。昼はカレー風のネパール料理。ここで藤本氏紹介の、例の4chで放映されたザンブシェルパと合流、カカニの丘にコロナのボンコツ車に乗り一時間半のデコボコ道のドライブより開放され、丘の上のロッジで紅茶(30円)を飲み乍ら、ニルギリ、アンナプルナ、ダウラギリの大パノ라마を満喫。30分後、菜の花、稲穂のたれた山頂まで開墾された千枚田を眺め乍ら1時間でホテルに着く。

10月19日 トレッキング許可書を持ってカトマンドウ空港よりチャーターの5人乗りヘリにシェルパ共3人で乗り込む。ヘリは2,000mの高度を保ち乍ら1時間のフライトで村人、外人等数十人の出迎え?を受けゴラパニ(2,895m)に着く。ダウラギリロッジに荷物をおきブーンヒルに登りだしたが、風邪と高山病?で体調悪く、途中で独り引返し、木製のベッドに横になる。耳元にゴラパニ峠を越へボカラに荷を運ぶのか、ラバの首にかけられたカウベルの音が伝わり異国情緒満点。18:00の気温10°C快晴無風。ロッジ代はシャワー、洗面所等気のきいたものではなく二食付(900円)。泊まり客は大半がドイツ人、オーストラリア人、ニュージーランド人等で、日本人は吾々二人だけ。

10月20日 キャンジンゴンパ行きヘリが2時間遅れて到着。矢張り2,000mの高度を保ち乍ら眼前に白く輝くヒマラヤ山脈が視界一杯に広がり、ブルースカイの中に朝日に輝きまさに今回の旅のハイライト。高度を下げU字谷の山壁すれすれにフライト、突然谷が大きく開けキャンジンゴンパ(3,885m)の広場にここでも村人

数十人の出迎え？を受け60分のフライトで着地。11:15気温17°C無風、余りの暖かさに吃驚。雲一つない青空のもとランタンの全容を仰ぎ、雄大な景色と美しさに夢中で360°シャッターを押す。約束の45分があっという間に過ぎ、同級生森本氏の御冥福を祈り合掌。名残を惜しみ乍らヘリに乗り、ポカラよりのトレッキングルートを眺め乍ら40分のフライトでカトマンドウ空港に着く。夕食は富士で日本料理定食(1,350円)。

10月21~22日 ヘリ欠航に備えての予備日は近郊のタクシー半日ガイド付きで5,000円。

10月23日 バンコック泊まり。

10月24日 直行便で無事帰神。振り返れば好天に恵まれあっというまの9日間のシルバー向きの旅でした。

来年10月関空より直行便でカトマンドウに飛び、又ヘリを利用してホテルエベレスト・ビューに泊まり、エベレストの展望を楽しみたいと思っています。

冬のカラコルム フンザ散策

(12月26日-1月5日)

佐々木惣四郎

昨年11月、宝塚での山の集まりの時に、ナンガパルバットに執念を燃やす和田君の話に興味を刺激されて、衝動的にカラコルムへ行きたくなり、昨12月26日より一人で現地実働5日間のカラコルム散策へ出発。

カラコルムはパキスタン最北部にあり、中国最西部の国境となっています。位置としてヒマラヤ山脈の西端より約600km背後にあり、ヒマラヤとカラコルムの間がカシミールと呼ばれるインドとの紛争地帯となっています。さらに、カラコルムの西端よりヒンズークシュ山脈がカブールに続き、カラコルムの背後よりは、コンロン山脈が中国に広がっています。別の言い方をすればヒマラヤの西端より真西へ約600kmがパキスタンの首都イスラマバードで、カラコルムハイウェイでカイバー峠経由、約6時間でアフガンのカブールという訳です。

プロローグが長くなりましたが、どちらかと言えば政治的にキナ臭い地域である為バスでの移動中も兵隊さんの検問が絶えずあり、平和な日本にはない緊張感が旅に色彩りを添えています。

さて、首都イスラマバードまでの空路の後、500km北方のギルギットまで180ルピ

ー (630円) で、20年前のバスに乗り、カラコルムハイウェイを走る事17時間、さらに110km北方のフンザまで60ルピー (210円) で2時間強、つまり合計20時間夜を徹して、ひたすらインダス川に沿って、高度2,500mのフンザ迄やっと到達。冬の旅行客はほとんどゼロでホテルにも客はおらず1泊550円の最高級ホテルも暖房、水がほとんどなく素泊まりという感じ。ガイドとポーター (約2,900円/1日) と共に、ウルタル谷へハイキング。

ウルタル峰は、村のすぐ背後にある7,600m級の未踏峰で、7,700mのバトウーラ峰に続く。ウルタル谷の最奥は3,500m前後で広く、夏の放牧地になっていた。しかし、ウルタルピークへは、高度差4,000m弱の岩壁で、水平距離にして500m位かと思わせる程間近にあり、その迫力は素晴らしく、文字通り「どこまでも聳えつづける高い山」を実感させるに充分であった。

放牧小屋で一泊の後、偶然、昨年5月にウルタルを目指して遭難死されたアルピニストの長谷川氏、星野氏のイスラム式墓地を発見した。これだけ高く厳しい岩山に2人でチャレンジされた精神には敬服させられた。我々凡人アルピニストには登る気もしない高さと迫力なのである。

残念ながら天気には恵まれず、谷より帰る日にやっと青空が見え、正面にディラン峰 (7,600m級) ラカポシ (7,700m級) の全貌がやっと見られた。高度差のある山々が林立しており、氷河もヒマラヤに比し、非常に大きく長くスケールもあり、カラコルムの一端に触れる思いがした。

初めてのカラコルムへの旅であったが、総じて荒々しく、ギルギットよりの帰る途中ナンガパルバットの麓へ、チトラールより入りたかったが、風邪でダウンし、断念せざるを得なかった。次回はスカルドよりK2方面へ旅したいもので、ガイドはイスラマバードで見つけて、少しは楽しい旅にしたいと思う。今回は、巡礼の旅の様で、タキシラのガンダーラ仏像を見ていたら、仏像に魂を燃やした人々の心に触れる気がした。

台湾・大崙溪～卑南主山 (3,295m)

青島 靖

●●●●●
流程40キロの溪谷といえば、ダム無き頃の、出合からの八久和山よりも長く、黒部川の仙人ダムより源頭・三俣蓮華岳までの流れに相当する。日本ではもう20年も

前にこのクラスの自然水系は消滅した。この事実の意味を現代の我々は今一度考えてみる必要があるが、それはさておき、今冬私は台湾に渡り、流程40キロ、標高差3,000mの一つの溪谷を遡行してきた。

12/23 台北着。車とバイクがひしめき合って走る光景に圧倒される。夜、中華山岳協会を訪問後、台北遡溪倶楽部の面々と飲む。

12/24 午後よりバスで彰化へ。夜、彰化縣登山協会、彰化遡溪倶楽部の皆と飲む。

12/25 ワンボックスをチャーターし、新雪をまとった玉山を眺めながら南部横貫公路経由で大崙溪出合の新武橋へ。曇り空の下、川原を2キロほど遡って幕営。冬期とあって減水しており、渡渉も何とか出来るようで一安心。

12/26 快晴。明るく雄大な大河を、渡渉に泳ぎも交えて楽しく遡る。が、午後3時、兩岸にわかに立ち上がり、暗潭が淀む。入り口のトロを越すとゴルジュの奥にもうもうと湯煙が立ち昇っているのが見えた。これはまさに「温泉ゴルジュ」だ。しかし、最奥、川幅一杯の2段滝は取り付くすべが見つからず、側壁ルートも成功せず、時間切れ。手前の砂地で幕営。あたりいたるところに温泉が湧き、砂地も地熱で温かく、振り仰ぐV字のゴルジュの向こうには星々のキラメキ。今まで随分と色々な所に泊まったが、こんな所は初めてだ。心なしが陶然とする。青竹酒のせいばかりではあるまい。

12/27 朝、くだんの核心部に巻きルートからもう一度挑戦、滝の上には出たものの、上流も高い壁が切れ目なく連なり、川床へは垂壁を2ピッチの懸垂が必要。先で行き詰まった場合、進退窮まる恐れがあるため遂に断念。ゴルジュ入り口まで戻って尾根から山腹トラバースへの果てしない大高巻き。途中横切った支流の下部は曲がりくねった煙突のような超えげつないゴルジュで、皆の恐怖心をあおる。結局一日かがりの大高巻きで、薄暮の似合う寂しい川原に降り立った。

12/28 川原もわずかの間、再びゴルジュとなって長トロが横たわる。その先は延々とゴルジュとの格闘。特に「成瀬のゴルジュ」は一見して絶対無理と思えたが、成瀬君が素晴らしいセンスでルートを拓き、突破。皆へとへとに疲れて幕営地に着くが、まだまだゴルジュは終わらない。大河なので、こんな峡谷でも薪には不自由しないのが嬉しい。

12/29 泊地先の15mCS滝が無理で、今日は朝から高巻き。懸垂15mで谷に戻ると、再び流れと向き合う遡行が続く。異国だからといって谷の美しさ、厳しさは変わらない。しかしゴルジュは今日も終わらない。ここ2日曇天が続いたが、夜半ふと目覚めた空は、澄み切ったいい月夜だった。

12/30 ゴーロを苦労しながら越えていくと、やや谷幅が広がり川原も出てきた

した。左岸、尾根までの壁が朝日を受けて伸びやかだ。川の真ん中、深いトロの中にそびえる不思議な三角錐の岩峰。右岸に大支流を入れるその先で、昼食。まぶしい日差しが心地よい。しかし平和な気分も束の間で、またまたゴルジュに突入。だが何となく、スタンドプレーの通用する「手頃な」スケールになってきた事に気づく。私も所々で小技を効かせ、遡行を盛り上げる。ゴルジュをひとまず抜けた所で泊。

12/31 今日小雨模様。無機質の岩に散り落ちた紅い葉がひととき美しい。再び断続的なゴルジュ。やっと二俣を過ぎる。日程は2日ほど遅れているが、もともと僥倖をあてにした計画だったし、あまり焦りもない。予想以上の谷の悪さ、メンバーの力量の素晴らしさ。毎日が充実しており、むしろどこまでやれるのだろうという期待感の方が強い。今日も大技小技の連発であつという間に時間は過ぎ、ゴルジュ真只中の巨大な岩棚で大晦日の宵を迎える。もちろん焚き火は欠かさない。

1/1 昨タルート工作をした左岸大トラバースより斜滝を越え、次の、猿なら飛び渡れそうに上空の狭まった廊下の下滝を右岸の斜上バンドから越すと、さしものゴルジュも終わりを告げる。後は比較的穏やかになった谷を、それでも右往左往しながら遡って、とある支流に出た。この支流は関山～卑南主山の主稜線に突き上げる穏やかそうな谷であり、あらかじめエスケープルートの候補に挙がっていた。本流はあと10キロばかり、標高差 1,500mで卑南主山に突き上げるが、もう日程の無い我々はあまり未練もなくこの支流を選んだ。未練を感じるには今までの遡行が少し完璧すぎたようだ。もう時間を気にしながらわずかの源流部に突っ込んで行く気にはなれなかった。

支流は思った以上に何も無い流れ。とても標高差 1,200mの谷のムードではない。二俣を左に入り小1時間ほど遡って泊。標高も上がり、やや高山的な樹相となった。8日目の焚火を盛大に燃やす。

1/2 朝霧が去れば快晴の空。今日は谷を詰め、卑南主山への8キロの稜線歩きが待っている。長丁場だ。谷はほぼ何も無いまま源流部に至る。振り返る大崙溪の茫漠たる流れ。

3,000mを前後するアップダウンの激しい稜線を卑南主山に向かう。台湾の森林限界は 3,600m前後と言われているが、日本の 2,000m級の山々でも見られるように稜線付近は樹林帯を抜け出て、裸地や灌木帯となっている。踏跡程度の道はあるが、藪漕ぎもしばしば強いられる。西面は目も眩むような断崖で典型的な非対称山稜だ。日本の非対称山稜は東面に断崖が多く、それは積雪のためと説明されるが、果たしてそうかと疑問が湧いてくる。ゴルジュの成因は滝の後退によるという説も含め、案外地形学は温室育ちの憶測がまかり通っている気がする。

4時間歩いて、卑南主山の肩に到着。荷物を置き、空身で山頂を往復。標高3,295m。西日が嬉しい快晴の頂きだ。さあ後は下るだけ。だが下山路も長く、すぐに日が暮れる。神々しいばかりの夕焼けを眺めた後はヘッドランプを灯け、丈余のススキをかき分けたりしてひたすら下る。21時前、石山小屋に到着。彰化の山友が大勢待っていて、ビールに御馳走と歓待してくれた。酔眼にうつる星空がとてもきれいだ。

1/3 1時間余りで林道終点。さらに1時間ほど下った小屋から彰化の方達の車に乗る。ところが途中パンクのトラブルがあり、台南に着いたのはまたしても深夜。あきれるほど長いダートとその後の果てしない山道に、こんなにも山深い所に來ていたのかと驚かされる。残照の卑南主山が雲間から見送ってくれた。台南でもしこたま飲まされ、遂にゲロを吐く。

1/4 昼食を御馳走になった後、バスで台北へ。

1/5 故宮博物院や書店を回る。夜、再び台北遡溪倶楽部の面々と乾杯。

1/6 午後の便で台北を後にする。2週間ぶりの大阪。今年も暖冬だったそう
な。

■台湾・大崙溪 1993.12.25～1994.1.3

メンバー： 清水裕、木村芳文（大阪わらじの会）、成瀬陽一（海綿体）、
齊藤清克、松原憲彦、本田和茂（北大山岳部）、青島 靖、
梅靖（台北遡溪倶楽部）

使用ハーケン多数（懸垂支点以外はすべて回収）、ナッツ10数回、スカイフック2回。なおボルトは1本も使用しなかった。

* * * * *

《「会員名簿」の訂正》

「会員名簿」を、下記のように訂正下さるようお願いいたします。

1. 自宅欄

昭35 経	中村光伸氏	〒617	京都府向日市寺戸町辰己8-6
昭40 経	上田忠士氏	〒001	札幌市北区新琴似5-2 SタウンG棟504